

市長記者会見記録

日時：2014年8月5日（火）午後2時～午後2時17分

場所：本庁舎2階 講堂

議題：市政一般

<内容>

（全国学力テストの結果公表について）

司会： ただいまより定例の市長記者会見を始めさせていただきます。

本日は、市政一般となっております。それでは、市長、幹事社さん、よろしくお願
いいたします。

市長： こんにちは。よろしくお願いいたします。

幹事社： では、幹事社から質問いたします。前回の会見の後に、教育委員会が全国
学力テストの結果を保護者らにどう示すかという方向を決められました。それを見て
みますと、川崎の市教委独自というよりは、文科省の実施要領に沿うとして、序列化
や競争が生じないように配慮するようという形でした。市長は、全国学力テストの
公表を公約に掲げていましたけれども、今回の決定で満たされたと見ていいのか、そ
れとも就任前の思惑とはずれがあるのかを伺います。

市長： これまで学力の状況調査をどういうふう公表していこうか、すべきかとい
うことについては、教育委員の皆さんと何度か議論を重ねてまいりました。その中で、
序列化につながるということにならないように私からも申し上げましたし、きちんと
学力の向上につながるような、学校あるいは地区によって、それぞれの状況がありま
すから、それに見合うような公表のあり方について、私から意見を申し上げてきて、
それについて適切に対応していただいていると思っております。今回初めての形です
ので、今後色々な工夫みたいなものは出てくるんじゃないかなと思いますけれども。

幹事社： わかりました。そうすると、就任後、教育委員さんと話す中で市長が言っ
てきた意見には沿っていると思うんですけれども、就任前、選挙戦を戦うころの思惑
と比べてはどうだったんでしょうか。違いはあるんですか。

市長： 要するに、公表というものは手段でありますから、どうやって学力の向上に
つなげていくかと。そのために学力を公表する、状況調査をしっかりと公表してい
くべきなんじゃないかという話をしてきました。その中で学力をしっかりと公表してい
くことから逃げるべきではないという教育委員の皆さんのご意見もあったり、一方で

繰り返しになりますけれども、過度な競争をあおるような形というのは、全く私の本旨ではありませんので、そういったところからすると特に差異を感じているということではございません。

（市長の夏休みについて）

幹事社： わかりました。もう1点、7月の下旬、夏休みはどんな過ごし方でしたか。

市長： 家族と一緒にちょっと遠出をいたしました。

幹事社： 就任後、初めてこういうことができたということは何かありますか。

市長： 初めてゆっくりした休暇だったものですから、3人の子どもとゆっくり時間が過ごせてよかったなと思っています。

幹事社： お子さんの反応は何か……。

市長： 久しぶりに遊んでもらったと言っていたので、そのとおりで、よかったなど。

幹事社： では、各社から。

（遺体保管所について）

記者： 市民団体のほうから、遺体の安置所をつくるということで、国の法律、規定がないということもあるのですけれども、住民感情としては、あんまり気持ちよくないというお話を住民の方がされておりまして、一方でそういう必要性が大分出てきているということもあるんですけれども。その点について、市として今後どういうふうに対応するかということと、例えば条例をつくるとか、東京都などでは一部条例をつくっているところがあるんですけれども、または国に何か要請を働きかけていくですか、あとの現状に対してどのようにお考えになっていますでしょうか。

市長： 昔の状況と、現代、特に都市部の中の状況というのが随分と様変わりしていますので、ご自宅で亡くなって、ご自宅にご遺体を安置してそこで弔うという形式から、直葬という形が増えてきているのと、この高齢化の進展に伴って、多死社会というのでしょうか、そういうことが伴うにしたがって、こういった施設というものはニーズがあるんだろうということを、今回の件を見て、改めて需要があるんだろうということは認識をいたしました。一方で、私もこの話を聞いて、自分のうちの隣にこれができたらと思ったら、それは決して喜ばしい施設ではないわけです。その中で何の法律の位置づけがないということに、改めて課題として認識させていただきました。

そういった意味で非常に難しい問題ですけれども、一方で市としても近日中に事業者の皆さんとお会いして、丁寧な住民説明をするようにということを要請していき

と思います。これはあくまでも法律や条例に基づく根拠がない形での事業者に対する要請ですから、一定の限界があるにしても、ぜひ事業を行うのであれば、それなりの説明をしていただくのが当然だと私は思いますので、そういうことを市のほうから求めてまいりたいと思っております。

記者： 何か条例のようなものを制定するとか、そういったお考えはありますか。

市長： 条例でやるか、あるいは要綱でやるかということは別にしても、こういった今まで想定していなかったような、この遺体保管施設に限らず、あらゆるものが想定されるんだと思いますが、こういったものを1回洗い出すようにと指示をしております。その中でどういったことができるのかということで、早急に庁内で検討会を立ち上げたいと考えております。

記者： 今、市内にあるこういった施設の数を把握されたりしていますか。

市長： いえ。これはなかなか実態把握が難しいというか、今回、届け出がそもそも必要ないものですから、どうなっているのかということがわからないという状況であります。

幹事社： 関連してですが、住民への丁寧な説明ということですが、さらにそれに加えて、住民の不安に対する緩和策というか、一定の限界はあるけれども、何か対策を要請するというお考えはありますか。

市長： あくまでも法律や条例に基づかないものですから、こちらのお願いという話になってしまいますけれども、最大限の住民の理解が得られるような要請はしていきたいと思っております。

幹事社： もう1点、色々なものを洗い出すことを指示しているということですが、今どちらが担当されているんですか。

市長： 健康福祉局です。ただ、健康福祉局だけではなく、まちづくり局を含めて、およそ想定されるものが局にまたがっているということが当然考えられるわけですから、今回の遺体保管施設は、一義的には健康福祉局になるんでしょうけれども、ほかの建物になるとまちづくり局だったりしますので、こういったところにも声を掛けています。

(横浜市営地下鉄3号線の延伸について)

記者： ほかの質問よろしいでしょうか。横浜市営地下鉄の延伸の件ですが、横浜市が今月から現地調査を始めるということで、川崎は事業主体ではないんですが、この

延伸の是非について市長のスタンスを伺いたいと思います。市長の地元には割合近い地域だと思うんですが、市民のニーズが高いという実感はあるのか、そのあたりもあわせてお願いします。

市長： この3号線については、議会で私も繰り返し答弁していますが、広域的なネットワークとしては重要なものだと思っております。一方で、今回横浜市の事業化に向けての調査ということでもありますから、事業化としてふさわしいのか、ふさわしくないのかというのを、まずは横浜市が実施主体として判断されるための調査ということでもありますから、それは少し見守ってまいりたいなと思っております。

記者： ありがとうございます。

（政治家のパーティーへの参加について）

記者： すみません、先日一部報道によりますと、中田宏衆議院議員の政治パーティーに市長が出席参加されたという報道があったんですけども、こちらは事実だと思うんですが、中田宏議員を支援されるということでしょうか。

市長： いや、支援するとかそういうことではなくて、これまでも私は国会議員候補予定者といいますか、現職の方、前職の方を含めてお招きをいただいたところに伺っているケースもございますので、その延長線上というふうに考えていただければ。ただ、お付き合いさせていただいている中で、これまでの人間関係とか、様々な要因がありますので、中田さんについても非常に深い人間関係がございますので、お誘いをいただいたので行ってまいりました。

記者： 18区から出られるという、まさにこれも市長の地盤、地元から出られると公言されていますけれども、こちらについての何か感想はございますか。選挙区が変わるということですよ。

市長： そうですね。というか、18区内にはよく知っている候補者の方が複数名いるので、複雑な思いで見えておりますけれども。

記者： ほかの方も付き合いがあるということなんですか。

市長： ええ。ですから、今回の話も選挙云々の話ではないので。

（5歳児教育の限定無償化について）

記者： はい、ありがとうございます。もう1点なんですけれども、先月23日に下村文部科学大臣が従来の子ども・子育て支援新制度とは違う形で、5歳児の無償化というものを提案されたということがあったんですけども、こちらについては市長は

どういうふうにお考えですか。

市長： すいません、その情報は私まだしっかりと勉強させていただいておりませんので。

記者： 要は、5歳児全体の23%に当たる、年収が360万以下の世帯について無償化するという制度なんですけれども、一部ほかの自治体の長からは制度が間に合わないんじゃないかと。来年度から実施するという上では。当然事務はこちらにおりてくるわけですから、という意見も出ていて……。

市長： これは来年度からの話なんですか。

記者： そうです。

市長： これは大変しっかりと状況を把握したいと思っております。すいません。

記者： はい。

（主要課題調整会議（サマーレビュー）について）

記者： 今日からサマーレビューが始まりましたけれども、冒頭でも挨拶がありました。初日の途中まで終えて感想をお伺いできればと思います。

市長： まだ実は1局しかやっていないんですね。この後また始まりますけれども、冒頭でご挨拶をさせていただいたとおりですけれども、非常に財政状況がこれからも厳しいことを見込まれていく中で、それでも市民の皆様からの行政に対するニーズはどんどん高まってくると。そういう意味ではあれか、これかというのをもっと激しく選択していかなければいけないと思っています。ですから、行革の視点に立って、それぞれの局がそれぞれの経営者というか、局長さん以下みんながどう質的、量的転換をしていくためにこれを削らなければいけないのかというのを真剣にやらないと、相当厳しいことになると思っています。第一段階でありますので、これからサマーレビューのところでもまずしっかり精査していきたいと思っています。

記者： 実際、こども本部はお話しできる範囲でいいんですが、結構削減できそうですか。

市長： まだ始まったばかりです。それにしても幾つか私のほうからも注文をさせていただきました。これから、とにかく何を削るにしても、何を増やすにしても、市民の皆さんにしっかりと議論が見えるようにと思っています。何のどういうサービスに幾ら皆さんの税金が使われているのかということをしっかり見せていく、説明していくという努力がこれから必要になってくると思っています。

記者： わかりました。

(国家戦略特区について)

記者： 国家戦略特区の話ですが、まだ東京圏では区域会議というものが開かれていない中で、この間、県が音頭をとって集まりがありましたけれども、区域会議をやられていない動きの遅さはどう感じていますか。

市長： 東京のほうは東京の事情があるんだと思いますけれども、今しっかり調整されていると聞いておりますので、特に何か東京が遅いんだという認識は、私は持っておりませんが。

記者： そういう中で神奈川県として固めておくべきというイメージはあるんですか。

市長： 僕は神奈川県ということよりも、あくまでも東京圏の話ですので、東京だ、神奈川だという仕切りは極めておかしいと思っております。東京圏で話し合うべき話だと思っておりますので、それが指定された区域の話。ですから、今までのとおりの従来の、川向こうだ、川のこっちだという議論は、私は国家戦略特区については極めてナンセンスだと思います。

幹事社： よろしいでしょうか。

司会： それでは、以上をもちまして、市長記者会見を終了いたします。

ありがとうございました。

市長： どうもありがとうございました。

(以上)

この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理したうえで掲載しています。

(お問い合わせ) 川崎市役所総務局秘書部報道担当

電話番号：044(200)2355